

今日のトピック 最近の指標から見るインド経済(2015年5月)

物価の落ち着きから利下げ観測が強まる

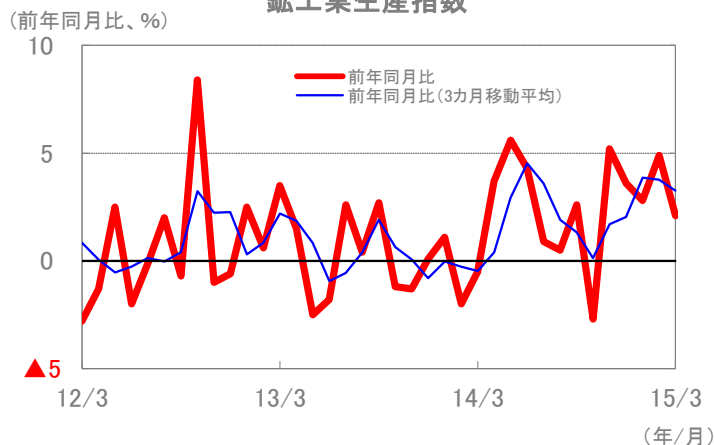
ポイント1 生産は拡大基調 利下げなどが後押し

- 3月の鉱工業生産指数は、前年同月比+2.1%と前月から伸びが鈍化しましたが、3カ月移動平均ではこのところ同+3%台で推移しており、生産は拡大基調が続いています。
- 3月分の内訳を見ると、消費財が同▲0.7%と低迷した一方、資本財は同+7.6%と比較的高い伸びとなりました。インド準備銀行(中央銀行、RBI)による利下げ、原油安による企業のコスト低下、モディ政権の構造改革などを背景に、設備投資主導で生産の拡大基調が継続しています。

ポイント2 物価は落ち着いた推移 追加利下げ観測が強まる

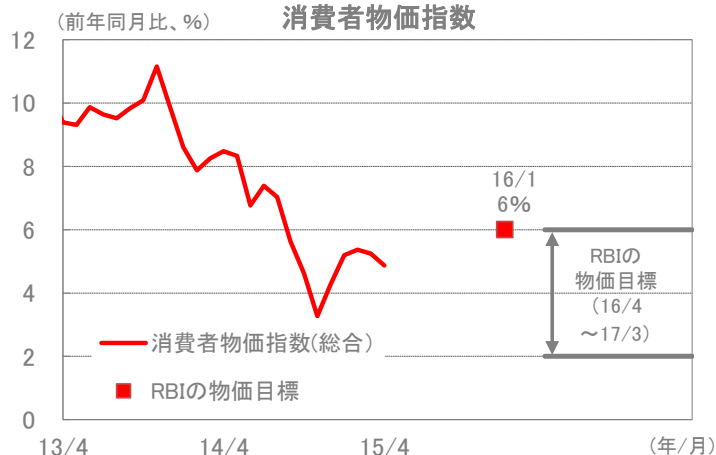
- 4月の消費者物価指数は前年同月比+4.87%と、2月の同+5.37%を直近のピークに2カ月連続で低下しました。また、消費者食品物価指数は同+5.11%と前月の同+6.14%から低下しました。
- RBIは、4月7日の会合で政策金利(レポレート)を7.50%に据え置きましたが、物価動向次第で機動的に利下げを行い、景気を下支えする姿勢を続けています。1月と3月には臨時会合を開催し、0.25%ずつ利下げを実施しました。今年のモンスーンシーズン(6月から9月)の天候は、概ね平年並みとの予報が見られ、野菜など食品価格は落ち着いた推移が続きます。物価が安定的に推移するとの見方から、RBIが次回6月2日の会合で利下げを行うとの観測が強まっています。

鉱工業生産指数



(注) データは2012年3月～2015年3月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

消費者物価指数



(注) データ期間は2013年4月～2015年4月。
物価目標はインド準備銀行(RBI)による。
(出所) Bloomberg L.P.、RBIのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 投資誘致や利下げによる景気下支え、税制改正などの構造改革に期待

- モディ首相は積極的に主要国を訪問し、投資誘致を呼びかけてきました。利下げによる景気下支えも期待され、設備投資を中心に景気は拡大傾向が続くと思われます。
- 物品・サービス税(GST)や土地収用法などの法案を巡り、次期国会(7月～8月)に向けて与野党の対話機運が高まっています。これらの法案が成立すると構造改革前進への期待が高まります。

ここもチェック! 2015年04月27日 世界の「投信マネー」4月は引き続きインドの株式、債券ファンドに流入
2015年04月08日 インド中銀、政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。